

JR西日本で培った鉄道の

コロナ禍で苦しむ 公共交通への支援策を実現

― 柿本議員、梶原議員の両議員には、議会で地方ローカル線の課題やコロナ禍でのJR西日本の窮状などを取り上げ、支援を訴えていただいています。

柿本 組合員は、新幹線や幹線、ローカル線に関係なく、安全運行のために日々奮闘しています。

一方、議会や議員は、鉄道、公共交通に対する知識、知見がなく、ローカル線の話題になると、「JRが勝手なことを行っている」といった厳しい声がかかります。

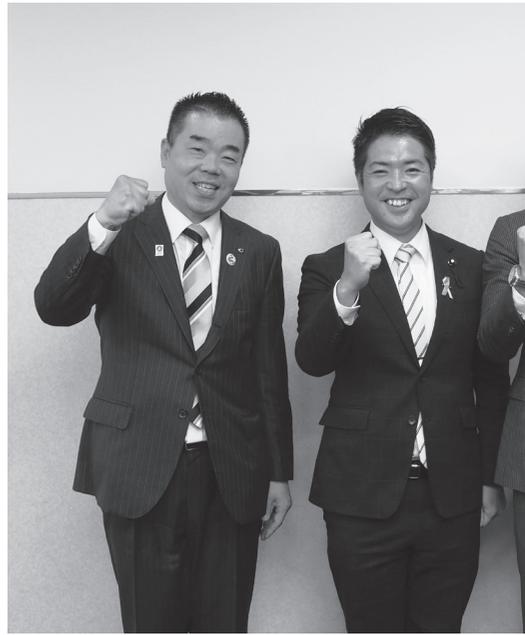
昨年9月の議会において、コロナ禍でのJR西日本の窮状、例えば、徹底したコスト削減に加え、JR発足以降初めとなる、一時帰休や部外出向などを行っている実態について発言し、少しでも、JR西日本の置かれている状況を理解してもらおうと取り組んでいます。地

公共交通への支援策を実現

方議員、地方議会として、自分たちの地域の公共交通を自分たちでどうしていくのかを地域、行政、交通事業者と議論し、考えていかなければなりません。

また、JR西労組から中国ジェイアールバス、JR西日本宮島フェリーも苦境に陥っていることを伺い、それぞれの会社にヒアリングに伺いました。広島電鉄出身の広島市議と共に、交通労協を通じて有効な支援策を検討し、ダイレクトに届く資金面の支援を求め、地方創生臨時交付金を活用し、39億円の助成が行われました。知事からは、全国的にも公共交通にこれほどの支援が行われた例はないと言われました(苦笑)。

また、広島県が示した「高度医療・人材育成拠点基本構想」において、現行のJR広島病院のエリアが



京都府議会議員
梶原英樹氏



梶原英樹(かじわらひでき)氏
プロフィール

■1983年5月6日生 京都市山科区出身
大宅小学校、大宅中学校、東稜高校卒業
■2002年4月 JR西日本入社
駅、車掌を経験後、輸送指令、安全推進室で勤務
■2017年8月 JR西労組京都地本執行委員
■2019年4月 京都府議会議員選挙(山科区)にて初当選
趣味は野球、ソフトボール、ソフトバレー、バドミントン、卓球、星空観測

2023 新 座談

広島県議会議員 柿本 忠貞氏
京都府議会議員 梶原 英樹氏
中央執行委員長 上村 良成



滋賀県知事
三日月大造氏

三日月大造(みかづきたいぞう)氏 プロフィール

■1971年5月24日生 滋賀県出身
■1987年3月 大津市立日吉中学校卒業
(軟式野球部、生徒会会長)
■1990年3月 滋賀県立膳所高等学校普通科卒業(硬式テニス部、生徒会会長)
■1994年3月 一橋大学経済学部卒業(石弘光ゼミナール、体育会硬式庭球部)
■1994年4月 JR西日本入社、広島支社岩国駅(駅営業係)、広島運転所(運転士)、広島支社営業課(営業スタッフ)、本社総合企画本部(グループ経営推進室)
■1999年11月 JR西労組中央本部青年女性委員長(専従)、JR連合青年・女性委員会議長(兼務)
■2002年4月 松下政経塾23期生として入塾
2003年5月末 早期修了
■2003年11月 第43回衆議院議員総選挙にて、滋賀県第3区より初当選(以降、4期連続当選)民主党政権下で国土交通大臣政務官、国土交通副大臣を歴任。
■2014年7月 滋賀県知事初当選、2018年6月、2022年7月に再選を果たし現在3期目。

「コロナにまげず、みんなでつくる『健康しが』」を合言葉に「シガリズムで健康しが」を作るべく取り組む。座右の銘は「一期一会」「着眼大局 着手小局」。趣味はウォーキング・自転車。好きなものは、ふな寿司、キウイフルーツ。

― 新しい年を迎えるにあたり、JR西日本グループへの期待について

支援はとも心強く、とりわけ、地方創生臨時交付金を活用した様々な支援、例えばICOCAの利用補助など鉄道利用を促すような支援が広がっています。コロナ禍でなければこの様な支援はなかったと思います。きつかけは別として、地域との連携、関わりが深まったことは今後に繋がることと確信しています。



― 地域共創はまだまだ多くの可能性があると感じています。そのために、JR西日本・JR西労組の果たすべき役割は非常に大きいと思っています。

梶原 JR西日本は安全最優先の取り組みのみならず、山科駅を見ても多くの社員が清掃活動や地域イベントにも参加し、地域と関わっています。この地域に向き合う姿勢は大切にしたいと思っています。来年には北陸新幹線が敦賀まで延伸します。敦賀発関西行のサンダーバードも夢ではありません。但し、山科駅に停車することが前提ですが(笑)。地域にとっても明るい話題も多々とも楽しみにしています。

〈4面へ続く〉

その候補地として検討されていることが明らかになったことから、広島地本、広島病院支部と連携を図りながら、JR西労組と県の担当者が話し合う機会を設けることなども行っています。

三日月 行政として、良かれと思っ

て作ったり行ったりしたことが、実際に使えば悪かったということがあるので、柿本議員のように現場に行き、受け手の生の声を聞いたことはとても良いことです。また、県議と市議で連携、協力していることも非常に素晴らしいことです。

梶原 私は、コロナ禍における公共交通機関の窮状を目の当たりにし、公共交通に対する国からの支援や利用促進を求める意見書を多くの議員と共に提出しました。他の会派からは最初はなかなか受け入れられませんでした。JR西日本の経営状況やその窮状を説明

― 柿本、梶原両議員のコロナ禍での取り組みを伺ったのを感じられますか。

上村 JR西日本の経営状況はまだ厳しく、組合員の生活も苦しい状況が続いています。今冬のボーナスは1.8箇月プラス3万円

JR西日本グループ全体で 街づくり、地域づくりに貢献を

まで戻りましたが、昨冬は1.25箇月プラス5万円でした。コロナ禍で離職者が増加していることに加え、JR西日本のブランド力も低下して採用競争力も失われるなど、人材面においても危機的状況に陥っています。

そのような中で、自治体からの支援はとも心強く、とりわけ、地方創生臨時交付金を活用した様々な支援、例えばICOCAの利用補助など鉄道利用を促すような支援が広がっています。コロナ禍でなければこの様な支援はなかったと思います。きつかけは別として、地域との連携、関わりが深まったことは今後に繋がることと確信しています。

本グループ全体で、街づくり、地域づくりに貢献していただくことを期待しています。以前、サービスネット広島からコロナ禍で商品が売れ残っているとの相談を受け、地域で困っている方々の助けにならないかと考え、障がい者施設や福祉施設、認定こども園などにお声かけをさせていただき、様々な施設に配布して非常に喜ばれたこともありました。施設などからはお手紙を頂き、JR西日本グループが地域と共存していることを実感することができました。

是非、JR西日本グループと地域や行政とのパイプ役として議員を使っていただき、地域共創に取り組みたいと思います。

上村 JR西日本グループの地域共創の取り組みとして、「山陰いもの探果隊」を通じて地域特産物の発掘や魚などの陸上養殖、瀬戸田レモンを活用した商品開発、あるいは在来線や新幹線での地域特産物の輸送など、地域に眠っているものを発掘し、販促ルートに乗せるなどをしていきます。

また、滋賀県の「びワイチ」の取り組みを参考に、地域と連携し、紀勢線にサイクルトレインを導入し、多くのサイクリストが和歌山県を訪れるようになりました。

地域共創はまだ多くの可能性があると感じています。そのために、JR西日本・JR西労組の果たすべき役割は非常に大きいと思っています。

お聞かせください。

三日月 JR西日本はなくてはならない会社であり、地域共創を実践し、地域と対話する姿勢を大事にする会社だと感じています。自治体が一方的に要望するだけではなく、共に創っていく、「共創」の関係にあることが重要であり、とても期待しています。

加えて申し上げるとすれば、会社の垣根を越えて、モード間(バスと鉄道など)や私鉄との連携などを強化していただきたい。これは何も鉄道会社に限った話ではなく、関西の活性化のためには会社の垣根を超えた広範な連携が欠かせないと考えています。2025年の大阪万博もありますしね。

柿本 JR西日本グループには様々な業種業態の会社があり、世の中にあるほとんどの産業をカバーしているのではないのでしょうか。JR西労組の役員経験を通じて、グループ会社内の各産業の特長を知りえたことは、様々な知見が求められる議員としての強みになっています。今後は、JR西日本グループが広島の地場企業として参画するときに、他の企業や自治体からJRグループがいてよかったと思っていただけのようになってほしいと思います。

また、鉄道だけでなく、JR西日

また、JR西日本グループと地域や行政とのパイプ役として議員を使っていただき、地域共創に取り組みたいと思います。

上村 JR西日本グループの地域共創の取り組みとして、「山陰いもの探果隊」を通じて地域特産物の発掘や魚などの陸上養殖、瀬戸田レモンを活用した商品開発、あるいは在来線や新幹線での地域特産物の輸送など、地域に眠っているものを発掘し、販促ルートに乗せるなどをしていきます。

また、滋賀県の「びワイチ」の取り組みを参考に、地域と連携し、紀勢線にサイクルトレインを導入し、多くのサイクリストが和歌山県を訪れるようになりました。

地域共創はまだ多くの可能性があると感じています。そのために、JR西日本・JR西労組の果たすべき役割は非常に大きいと思っています。